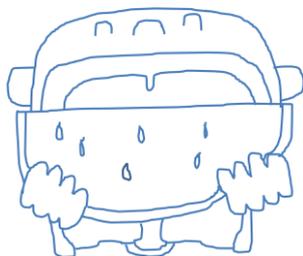


テーマ：「摂食・嚥下に関わるリハビリテーション」

残暑厳しい折、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

リハビリテーション科では、季節の勉強会と称し、年に4回の勉強会を計画しています。今回、夏の陣として下記の様に勉強会を開催致します。今回の勉強会では藤田保健衛生大学の百田貴洋先生を講師にお招きし「摂食・嚥下に関わるリハビリテーション」をテーマに、日々の業務に磨きをかける機会にしていきたいと考えています。また情報収集の場として、普段感じている疑問や不安を共に考え自己研鑽できる場として、リハビリテーション科のみではなく、他部門からの参加もお待ちしております。ご多忙とは存じますが、多くの皆さんの積極的な参加をお願いします。



日時：平成23年8月25日(木) 17:30～

場所：3病棟1階 リハビリテーション室

「摂食・嚥下に関わるリハビリテーション」

藤田保健衛生大学リハビリテーション学科 百田貴洋

摂食・嚥下に関わる問題は、リハビリテーションにおける様々な課題と直結する。栄養摂取という面から考えると、筋力強化や運動学も、基盤となる筋線維の肥大、毛神経線維の発芽などのエネルギーや新たな構造物の基なる物質は外部から取り込まなくてはならない。IVHや胃瘻などの代替栄養が発達した現代においても経口摂取と比較するとエネルギー吸収率の違いは明らかであり、代替栄養による消化器系の退行変性も知られている。違う角度から考えると口は食物と空気の出入り口であると同時にコミュニケーションを司る器官でもある。また、運動連鎖という面から考えると嚥下機能は頭頸部・胸郭体幹の協調的な運動により成り立ち、姿勢調節機能との関連も深い。食事動作として見れば、上肢機能や福祉用具などの使用も関連する。逆に言えばこれらの関連する機能のリハビリテーションのすべてが嚥下機能を向上させるということでもある。

今回、このような視点から近年の嚥下リハビリテーションアプローチの知見について紹介する。また科学の発展により、嚥下機能の理解やアプローチも常に発展している。時間と演者の能力の限界によりその一部ではあるが紹介するとともに今後の可能性について一緒に考えられれば幸いである。